

学生のうちに知っておきたい会計 会計についての10の疑問

公認会計士 望月 実

公認会計士 花房 幸範

無料レポート「会計についての10の疑問」をダウンロードしていただき、ありがとうございました。このレポートは2010年4月16日に阪急コミュニケーションズから発売する「<新常識！学生のうちに知っておきたい会計」の原稿から抜粋したものです。

「学生のうちに知っておきたい会計」紹介ページ

<http://ac-intelligence.jp/university/index.html>

私は本を書くようになってから、多くの大学生から就職について相談されるようになりました。いろいろな学生と話して感じることは、しっかりとした志望動機を言える学生はとて少ないということでした。みなさん自己PR、SPI、エントリーシート等の対策に手一杯で、会社や業界の研究をきちんとしている就活生は、ごく少数でした。そして、ごく少数の会社研究をしっかりとしている学生は、概ね人気企業に内定していました。

内定を取る学生の共通点は「しっかりしている」ということです。私は面接の場で「しっかりとした雰囲気」を出すための一番の近道は、その会社や業界のビジネスを研究することによって、自分がどのような仕事をしたいかという明確なビジョンを伝えられるようにすることだと思います。そこで、今回は大学生に「会社研究をしながら自分のキャリアを戦略的に考える大切さ」をお伝えしたいと思い、本書を執筆させていただきました。

この無料レポートでは、「学生のうちに知っておきたい会計」の中から「第1章 会計についての10の疑問」の部分を抜粋しています。なお、このレポートはご自由に転送していただいて結構です。みなさまのまわりで、会社研究をしながら自分のキャリアを戦略的に考えたいという方がいらっしゃいましたらこのレポートを、ぜひご紹介下さい。

今後もいろいろな無料レポートをダウンロードできるようにする予定です。無料レポートの情報につきましては、「経済丸わかり～公認会計士が教える使える知識」というメルマガでお伝えしますので、興味のある方は下記アドレスよりご登録下さい。

経済丸わかり～公認会計士が教える使える知識

(メルマガ) <http://blog.mag2.com/m/log/0000153671/>

望月 実

アカウントティング・インテリジェンス

(HP) <http://ac-intelligence.jp/>

(メールアドレス) minoru@ac-intelligence.jp

まえがき

・バブル崩壊と会計との出会い

私が会計と出会ったのは、バブルの崩壊がきっかけでした。私の中学、高校時代は日本中がバブル景気に浮かれていて、まだまだ日本の強さを信じていることのできる時代でした。その当時は、エコノミストが「株が上がる」といえば本当に株が上がり、その姿はまるで未来を言い当てる予言者のようでした。そんな姿を見ているうちに私はエコノミストに憧れるようになり、大学では経済学を勉強しようと思いました。

しかし、私が大学に入った頃には既にバブルが崩壊し、エコノミストが「日本経済は来年には回復する」と言っても、だんだん景気は悪化していきました。そのような姿を見るに従い、エコノミストへの憧れはだんだんと薄れていきました。そして、そのとき考えました。「どうして景気が良くなったり、悪くなったりするんだろう？」と。

私が大学に入る前は景気が良かったため就職活動は楽しそうでしたが、私が大学に入る頃には先輩たちが大変そうに就職活動をするようになりました。この数年間の間に、日本は好景気から不景気になったのですが、その理由はよく分かりませんでした。もちろん土地や株の価格が下がったことにより景気が悪化したというのは分かっていましたが、なぜ土地や株が下がったのか、そしてこれから自分はどのようにしていくべきかについて考えるようになりました。

そして、だんだんと「経済っていうのは、目に見えないばくぜんとしたものだよな。目に見えないばくぜんとしたものを勉強するよりは、経済の主役である企業について研究した方が、何か見えてくるかもしれない。企業の業績は会計を勉強すれば分かるのか。じゃあ、会計を勉強してみるか」と考えるようになりました。そして、会計を勉強するようになってからは、今まで目に見えなかったことに気づくようになりました。

例えば、伊勢丹などのデパートは販売している商品の値段も高いですし、建物も立派なのですごく儲かっていると思っていました。ところが、三越と統合する前の2007年3月期の伊勢丹の決算書を見てみると、営業利益率は4.1%しかありません。営業利益率が4.1%ということは、1万円の商品を買っても410円しか儲からないということです。この数字を見て、「思ったほど儲からないんだな」と感じた方も多いのではないのでしょうか。

その他にもいろいろな会社の決算書を見ながら、「この会社は地味だけど、結構儲かっているな」とか「化粧品メーカーは、やっぱり広告宣伝費をたくさん使っているんだ」「メーカーは工場とか生産設備などの固定資産をたくさん持っているな」というように、今までばくぜんと感じていたことを数字で確かめることにより、はっきりと理解できるようにな

りました。そして、会計と出会ったことが私の進路に大きな影響を与えました。

・会計を勉強するメリット

会計を勉強する一番のメリットは、物事の本質が見えるようになることです。今となつては日本の財政が危ないというのは常識ですが、私が大学に入った 1992 年にはマスコミでもあまりそのような報道はされませんでした。その頃は、「民間は潰れても、国は潰れない。だから公務員になれば、一生食べていくには困らない」と言われていました。

そのとき私は思いました。「なぜ、国は潰れないのだろうか？」と。民間の企業は借金が返せないと倒産してしまいます。同じように国も借金を返さなければ破綻してしまうのではないかと考え、国の財政状態について調べてみたところ、国の借金である国債残高が年々増加していることに気づきました。このペースで国債が増えていけば、いずれ国家財政が破綻してしまうのに、なんで多くの人は気づかないのだろうかと感じました。

また、同時に企業は成長と衰退を繰り返していくということにも気づきました。バブル時代においては、銀行や不動産などの資産をたくさん抱えている企業の業績が絶好調でしたが、デフレ時代には資産の値下がりにより大きなダメージを受けました。このように考えると、たとえ自分が就職するときの花形産業であっても、10 年後、20 年後は分からないと感じました。

大学卒業から定年退職までの間は、約 40 年あります。40 年という時間を考えると、公務員も絶対大丈夫だとも思えませんし、例えその当時の花形企業に入ることができたとしても、リストラなどによって一生その組織にはいられないかもしれないという危機感を感じました。そうすると、自分の専門分野を持つことによって競争力を身に付け、いくつもの組織で働いていくというキャリアプランが良いのではないかと思いました。

そのときに自分の専門分野を何にしようかと迷ったのですが、会計を勉強することによっていろいろなものが見えてきたので、会計士という仕事が向いているのではないかと思いました。そして会計士の試験に合格した後は、少しでも早く仕事ができるようになりたいと思い、外資系会計事務所に入って日々の仕事に励みました。

ここまでお話しをしたことは、みなさまにとっては当たり前のことかもしれませんが、15 年位前はあまりこのように感じる人はいませんでした。最も簡単に結果を出す方法は、世の中を大きな視点から分析し、多くの人々が気づく前に行動するということです。私が就職した頃は外資系企業よりも日本の大企業に入る方がステータスでしたので、今ほど外資に入るのは難しくなかったと思います。

・本書で学べる内容

情報化時代に価値があるのは、情報（知識）ではなく、手に入れた情報を使っていかに自分が直面している問題を解決するかという知的生産力です。そこで本書では、会計の細かい知識ではなく、会計を就職活動や社会人になってからの仕事に役立てる方法にポイントを絞って説明していきます。本書で紹介する内容は、次のとおりです。

- | |
|-----------------------|
| 第1章 会計についての10の疑問 |
| 第2章 決算書の読み方を覚えよう |
| 第3章 あこがれの会社を分析してみよう |
| 第4章 就職活動に役立つ会社情報を入手する |
| 第5章 有価証券報告書の使い方を覚えよう |
| 第6章 エコと会計 |
| 第7章 社会人に必要な3つの数字力 |

第1章の「会計についての10の疑問」では、会計をはじめて勉強する方が疑問に感じる点について、Q & A形式で説明しています。第2章の「決算書の読み方を覚えよう」で決算書の基本について説明した後、第3章の「あこがれの会社を分析してみよう」では、大学生の就職先として人気の高い電通や博報堂、三菱商事、三井物産などを分析してみたいと思います。

第4章の「就職活動に役立つ会社情報を入手する」では、インターネットや書籍などの様々な情報源から会社を分析するために役立つ情報の入手方法を説明します。第5章では有価証券報告書の効率的な使い方を、第6章の「エコと会計」では環境会計や企業の社会的責任（CSR）などを紹介します。そして、最後となる第7章では、みなさまが社会人になったときに必要となる数字力について説明します。

私は以前、就職活動を目的としたサークルにゲストとして参加したことがありました。そのときにいろいろな学生と話して感じたことは、しっかりとした志望動機を言える学生はとても少ないということでした。もちろんみなさんマニュアル本などを読みながら面接対策はしているので「 という理由で、 業界の仕事をしたい」というような答えが返ってきます。

そこで、もう少し突っ込んで「 業界っていても色々な仕事があるよね。もう少し具体的に 業界でどういう仕事したいかを教えてもらえないかな」と質問すると、ほと

多くの学生は答えにつまってしまいました。

その中で 1 人、具体的な会社名をあげて志望動機をしっかりと話すことができた学生がいました。その学生と 15 分ほど話しているうちに感じたことは「まだ会社にも入っていないのに、よくその会社のビジネスをここまで理解しているな。きっと 社に入ったらすぐに仕事ができるようになるだろうな」ということです。そして、後日彼から「 社に内定しました」というメールが届きました。

これは当たり前のことですが、面接を受ける会社のビジネスを知れば知るほど、面接でしっかりとした受け答えをすることができます。でも多くの学生は、自己 PR、SPI、エントリーシート等の対策に手一杯で、会社や業界の研究はおろそかになりがちです。自分を伝えるために大切なことは、相手をしっかりと理解することです。そして、相手が受け入れられる表現を使って、自分のことを伝えていかなければなりません。

会社のことを研究すればするほど、その会社にふさわしい自己 PR や志望動機を作り上げることができます。また、業界や会社を研究することは志望企業の面接を突破するためだけでなく、どういう職業が自分に向いているかという職業観の確立や社会人になってからの仕事にも役立ちます。

現在大学で勉強されているみなさまは、もうしばらくしたら就職活動を通じて社会に出て行くことになると思います。私自身、大学という閉じられた世界から、社会という開かれた世界に出て行くときには大きな不安を感じました。本書で学んだ会計を使うことによって、この混沌とした社会の中で未来を切り開く力をつけることができれば、著者としてこのうえない喜びを感じます。

2010 年 4 月
望月 実/花房幸範

第1章 会計についての10の疑問

この本を読まれているみなさまの中で、経営学部や商学部に通われている方は会計や簿記を学ぶ機会があると思いますが、それ以外の学部の方は会計というものに馴染みがないと思います。そこで、第1章では学生や新社会人のみなさまからいただいた、次の10個の質問に答えながら「会計とはどんなものか」「会計を学ぶメリット」などについて説明していきます。

- Q1 . 大学時代に会計を勉強するメリットは何ですか
- Q2 . 会計について簡単に教えて下さい
- Q3 . 会計の勉強に挫折しました
- Q4 . 簿記を勉強すれば会社のことが分かりますか
- Q5 . 簿記の効率的な勉強法を教えてください
- Q6 . 決算書はどこで手に入りますか
- Q7 . 儲かっている会社は良い会社なのですか
- Q8 . 決算書を読めるようになると仕事に役に立ちますか
- Q9 . どうやったら数字に強くなれますか
- Q10 . 売り手市場と買い手市場はどちらが得ですか

Q1 . 大学時代に会計を勉強するメリットは何ですか

大学の授業で会計を学んだのですが、どのように役立てれば良いかがイメージできません。大学時代に会計を学ぶメリットを教えてください。

大学時代に会計を学ぶメリットとしては、就職活動で会社を選択する時に役立つ 就職活動の面接で役立つ 自分の身を守ることができる 視野が広がる、という4つがあると考えられます。

1つ目のメリットは、就職活動で会社を選択する時に役立つことです。多くの学生は有名企業に入社することを希望するため、そのような企業の競争率はとて高くなります。しかしながら、会計を知っていると知名度が低くても業績が安定した会社や成長している会社のような優良会社を見つけることができますので、選択の幅を広げることができます。

2つ目のメリットは、面接やエントリーシートの作成に役立つということです。就職活動が始まると、多くの大学生は、自己分析、SPI、面接の練習などに力を入れるようになりますが、受験する企業のビジネスの内容をしっかりと理解している大学生は、まだまだ少数です。

会社が行っているビジネスの内容を知れば知るほど、その会社に合わせた自己PRをすることができますし、面接も最終に近づけば近づくほど「なぜ、ライバル会社ではなく、うちの会社を志望するのか」という質問のウェイトが大きくなってきます。この質問に対しては「御社の方が素晴らしいからです」という答えしかないと思いますが、問題はどのような表現で伝えるかです。

そのときに、「御社の行っている という事業は、××社よりも素晴らしいからです」と言うよりは、「有価証券報告書を見ながら、御社と××社の 事業について分析してみました。御社の売上はライバル会社の約1.3倍、営業利益率も2%ほど高くなっています。このように御社の方が売上高及び利益率が高いのは、多くの方が御社のブランドを高く評価しているかからだと思います。その理由が知りたくて、御社とライバル会社の店舗に足を運んだところ、御社の方が××という部分が優れていると感じました」というように具体的な言葉を使って、ビジネスの内容をしっかりと分析しているということをアピールすることができれば、好印象を与えることができるでしょう。

ある人事担当者に話を伺ったところ「会社のビジネスをしっかりと調べている学生は少

ないので、会社のことをきちんと調べている学生のポイントは高い」「会社のことをよく知っている学生は即戦力になりやすい」と言っていました。よっぽど特別な経験をしていない限り、自己PRでポイントを稼ぐのは難しいと思いますので、会社研究でポイントを稼ぐという戦略が良いのではないかと思います。

3つ目のメリットは、会計を知っていると自分の身を守ることができることです。例えば、「NOVA うさぎ」のイメージキャラクターで知られている英会話学校のNOVAは、2007年10月に倒産しましたが、そのニュースを聞いたときに「え、あのコマーシャルをたくさん流していたNOVAが倒産したんだ」とびっくりした方も多いのではないでしょうか。

もし、みなさまが決算書を読むことができれば、××ページで説明しているように数ヶ月前にはNOVAの倒産を予想することができたと思います。このように会計を身につけると、就職活動だけではなく、自分の身を守るために役立つ「先読み力」を身に付けることができます。

4つ目のメリットは、視野が広がるということです。みなさまもTUTAYAでCDやDVDをレンタルしたり、ローソンなどのコンビニで買い物をすることがあると思います。そのときに、TUTAYAを経営しているカルチュア・コンビニエンス・クラブやローソンの決算書を見てみると、買い物しているだけでは気づかなかったことが見えてきます。会計を学ぶと「自分の目の前の現実」というミクロの視点だけではなく、「会社全体でどのようなビジネスを行っている」というマクロの視点が身に付きます。

就職活動直前に慌てて就職先を探すのではなく、それまでの時間のあるときにゆっくりといろいろな企業の分析をしていけば、自然と入りたい業界や企業が見つかると思います。このように会計を学ぶことには数多くのメリットがありますので、みなさまもぜひ、大学時代に会計を学んでいただければと思います。

Q2 . 会計について簡単に教えてください

私は会計について全く知識がありません。会計とは何かを簡単に教えてください。

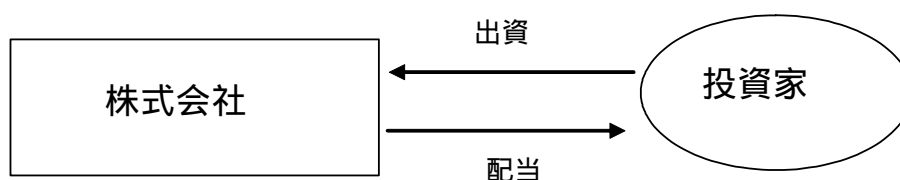
会計には株式会社のお金の流れを記録・報告する「企業会計」、国や地方自治体に関するお金の流れを記録・報告する「公会計」などいろいろな種類がありますが、みなさまが学ばべき会計は株式会社のお金の流れを記録・報告する「企業会計」になります。この企業会計のことを一般的に「会計」と呼びます。

会計を理解するためには、その前提となる株式会社のしくみを理解しなければならないので、最初に株式会社について説明します。ベンチャー企業をイメージすると分かりやすいと思いますが、世の中には自ら事業を興したいと考える「起業家」と、事業に必要な資金を出資することによって儲けたいと考える「投資家」が存在します。

投資家が起業家本人に直接お金を渡すことも不可能ではありませんが、起業家に直接お金を渡してしまうと、起業家が持っている資金と投資家がビジネスのために提供した資金を混同してしまう危険性があります。そこで、起業家本人の財産と投資家から提供された財産を明確に区別し、そのビジネスの採算性を管理するために株式会社というシステムが考えられました。

株式会社に対して資金を出資した投資家は、その提供した資金に見合った株式を受け取ります。ちなみに、株式を持っている人のことを株主といいます。株式会社の実質的な所有者は株主なので、株主は会社が儲かった場合においては、持っている株式数に見合った配当を受け取ります。

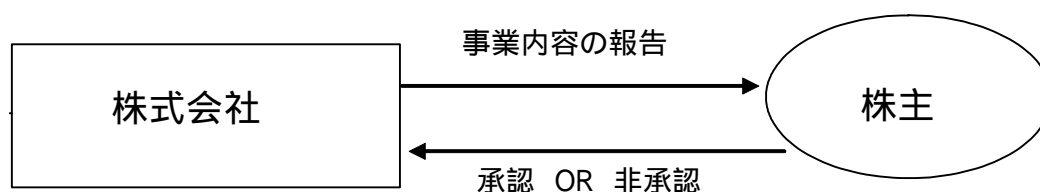
(図 1) 株式会社と投資家の関係



そして、株式会社は決算終了後に株主総会を開き、株主に対して1年間に行ったビジネスの内容について報告します。そのときに重要となるのが、1年間に企業が稼いだお金と使ったお金を「会計」というルールに基づいて集計した「決算書」という書類です。

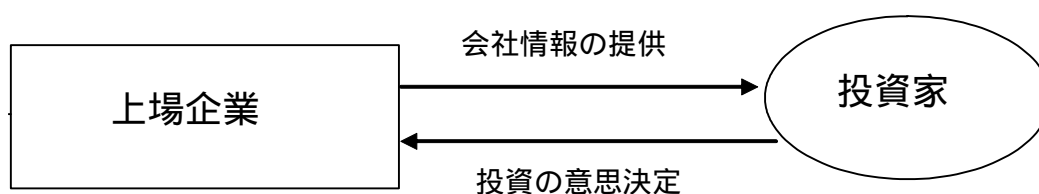
株主は決算書の数字を見ながら、経営者が期待された役割を果たしていると感じたときには、次期以降もその経営者に経営をお願いすることになります。しかしながら、経営者が期待される役割を果たしていないときには、株主総会の決議で現在の経営者を解任して新しい経営者を選任することもできます。

(図2) 株主総会



ここまでの話は、すべての株式会社に共通する話です。株式会社の中でも上場している会社は金融商品取引法の定めによって、1年に1回有価証券報告書を、3ヶ月に1回四半期報告書を作成します。有価証券報告書や四半期報告書には様々な情報が含まれていますが、その中でも一番重要な情報が会計というルールで作られた決算書です。投資家は決算書などを参考にして投資をするか否かを決定します(図3)。

(図3) 上場企業と投資家の関係



ここまでの説明を読んで、「私は株式会社に投資をするわけではないので、会計なんて必要ないのでは」と感じた方もいらっしゃると思います。上場企業は投資家に対して、決算説明会を開いたり、有価証券報告書などの書類を作ることによって、「会社がどのようなビジネスをしているか」「どれだけ儲かったか」というような様々な情報を提供しています。会計を知っていると、このような情報を解読することができるため、会社研究をするときにとても役に立つのです。

Q3 . 会計の勉強に挫折しました

大学の授業で会計を学んだのですが、数字と理屈ばかりで全然面白くなく、興味を持つことができませんでした。会計を面白く学ぶ方法があるのでしょうか？

会計は英語の勉強と似ています。英語に興味を持つためには、いきなり英文法の勉強を始めるのではなく、洋楽を聴いたり、映画を見たりしながら、楽しみながら英語にふれる方が良いでしょう。そして、「英語ってこんな感じなんだ」「こんな発音をするんだ」というような、英語が日常生活の中でどのように使われているかというイメージをつかんでから、必要に応じて英文法の勉強をするのが楽しく英語を勉強するコツです。

会計も同じように、本書で説明している会計の基本的な内容を理解したら、難しい内容を勉強するのではなく、実際に会計が使われている現場を見るのが良いと思います。会計がどのように使われているかをイメージするのに一番良い方法は、決算説明会の動画を見ることです。

上場企業は多くの投資家に株式を購入してもらうために、決算が終了すると「決算説明会」を開き、機関投資家やマスコミに対して会社の業績やビジネスの内容をアピールします。そして、最近は多くの企業のホームページで決算説明会の動画を見ることができるようになりました。動画は各社のホームページの「IR 情報」「株主・投資家向け情報」などのページから見ることができます。

一例を上げると、任天堂のホームページの中にある「株主・投資家向け情報」(<http://www.nintendo.co.jp/ir/index.html>)のページから決算説明会の動画を見ることができます。決算説明会では、決算書の数字の説明だけではなく、世界のゲーム市場の現状分析やこれから任天堂がどのような戦略でビジネスを進めていくかということが説明されているため、会計のことがあまり分からなくても楽しみながら動画を見ることができます。

そして、動画を見る最大のメリットは、決算書の数字がどのような意味を持っているかをリアルに理解できることです。例えば、営業利益の数字が増えた場合には、経営者は「

という戦略が成功したため営業利益が増えました」と誇らしげに説明します。その反対に営業利益が減ってしまった場合は、経営者は「 という原因によって営業利益が減ってしまいました」と申し訳なさそうに説明します。この様子を見ていると「営業利益というのは増えると良いもので、減ると悪いものなんだ」ということが分かります。詳しくは第2章で説明しますが、営業利益とは、その会社が本業から稼いだ利益を表しています。

他にも、次のような企業で決算説明会の動画を見ることができます。

ソフトバンク株式会社 孫正義社長

<http://www.softbank.co.jp/ja/irinfo/index.html>

楽天株式会社 三木谷浩史社長

<http://www.rakuten.co.jp/info/ir/>

日本マクドナルドホールディングス株式会社 原田 泳幸 CEO

<http://www.mcd-holdings.co.jp/>

SBI ホールディングス株式会社 北尾 吉孝 CEO

<http://www.sbigroup.co.jp/investors/disclosure/sbiholdings/>

株式会社ファーストリテイリング 柳井 正会長兼社長

<http://www.fastretailing.com/jp/ir/library/earning.html>

英単語を覚えるときには、単語帳を使って単語を覚えるよりも、自分の好きな映画の中で使われている分からない単語を覚えた方が楽しみながら勉強を進めることができます。会計もこれと同じように、みなさまの興味のある会社の決算説明会の動画を見ながら、分からない言葉について会計の入門書やグーグルなどを使って調べながら学んでゆくのが良いと思います。

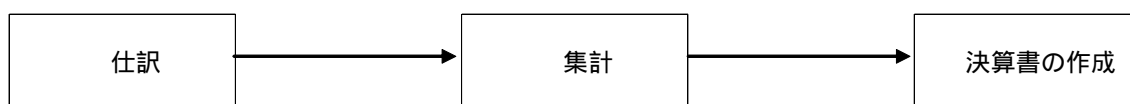
また、決算説明会の動画では、経営者自らが業界の状況やその企業がどのような戦略を取っているかを分かりやすく説明していますので、格好の企業研究の材料になります。決算説明会の動画を見ると、会計が分かるようになるだけでなく企業研究もできますので、興味のある会社の動画を見ることをお勧めします。

Q4 . 簿記を勉強すれば会社のことが分かりますか

就活などに役立てるために簿記の資格を取ろうと思いますが、簿記を勉強すると会社のことが分かるようになるのでしょうか？

簿記は決算書を読むためではなく、決算書を作るための技術です。そのため、簿記を勉強してもすぐに決算書を読めるようになるわけではありません。ちなみに、簿記とは何かを簡単な図で表すと次のようになります(図4)。

(図4) 簿記の流れ



決算書を作るためには、最初に日々のお金の流れを会計のルールに従って記録する必要があります。この会計ルールに従って取引(お金の流れ)を記録することを簿記の用語で「仕訳」といいます。次に決算を行うために日々の取引を集計し、合計金額を出します。そして、最後に色々な調整をすることによって決算書を作成します。日々の取引の記録から決算書の作成までが簿記の勉強の範囲です。

そのため、会社の中で経理や財務のスペシャリストを狙う人や会計事務所へ就職を希望する人にとっては、簿記は必須の知識だと思いますが、その他の人にとっては簿記よりも決算書の読み方を学んだ方が良いと思います。ただ、同じ料理を食べた場合でも、料理を作れない人は「美味しい」と感じるだけですが、料理を作れる人は「美味しい」と感じるだけでなく、「この料理は という材料で作っているのか」というようにイメージを膨らますことができます。

決算書を読むときもこれと同じで、決算書を作る技術である簿記を理解していた方が、決算書の内容を深く理解できるというメリットがあります。ちなみに、会計と簿記の関係ですが、会計とは決算書を作るための基本的な理論、簿記とは決算書を作るための具体的な技術とイメージしていただくと分かりやすいと思います。

Q5 . 簿記の効率的な勉強法を教えてください

簿記の資格を取りたいと思って勉強を始めたのですが、なかなか勉強がはかどりません。良い勉強法があったら教えてください。

私は大学2年生の秋に日商簿記2級の試験を受験しました。そのため、市販のテキストを購入し勉強を始めたのですが、一つ一つの言葉の意味は分かって、全体像はぼんやりとしか理解できませんでした。そして、試験まで残り1週間になったところで過去問をやり始めたのですが、100点満点中40点位しか取れませんでした。簿記の試験の合格点は70点です。あと1週間で合格ラインの70点までいけるのだろうかと焦りました。

とはいえ、そこから手を広げてもしようがないので、残りの1週間で7年分の過去問を繰り返し解いていきました。当たり前といえば当たり前ですが、同じ問題を何度も繰り返し解いていくので、最終的にはすべての問題を解けるようになりました。そして、簿記の試験を受験したところ、無事合格することができました。

そのとき思ったのですが、簿記2級くらいまでだったら、それほど難しい問題はないので、何度も過去問を解いている内にパターンが見えてきます。そして、パターンが見えてくると、「簿記ってこんなもんなんだ」と理解できるようになりました。簿記はとてつつきにくい学問ですので、内容を理解しようとするよりも、テキストの問題や過去問を解きながら出題パターンを理解し、制限時間内に解けるようにトレーニングするのが効率的な勉強方法だと思います。

Q6 . 決算書はどこで手に入りますか

志望企業の決算書を手に入れたいと思うのですが、どうやって手に入れればよいのでしょうか。

決算書の入手方法は誰でも証券取引所で株式を売買することができる上場企業と、証券取引所で株式を売買できない非上場企業とで異なります。上場企業とは、証券会社で普通に株式を売買することができる企業とイメージしていただければ結構です。

上場企業は有価証券報告書を作成することによって、投資家に対して企業の情報を提供しており、その中に決算書が含まれています。有価証券報告書の中には決算書だけではなく、会社がどのような財産を持っているか、会社のビジネスの内容、従業員の数、平均給与などその会社を知るために必要な様々な情報が記載されています。ちなみに、有価証券報告書から就活に必要な情報を取り出す方法は、「第7章 有価証券報告書の使い方を覚えよう」で説明します。

それに対して非上場企業の大部分は投資家に対して会社の業績をアピールする必要はないので、一般的にはホームページからは決算書を入手することができません。ただし一部の企業では、取引先などに自社の状況を知ってもらうために決算書を開示していることがあります。どうしても未上場企業の決算書を入手したいときには、有料となりますが帝国データバンク、東京商工リサーチなどの信用調査会社から決算書や会社の沿革などの情報を入手することができます。

ちなみに、上場企業のホームページからは決算書（有価証券報告書）以外にもアニュアルレポートやCSR報告書などの会社の情報が分かる資料をダウンロードすることができます。アニュアルレポートやCSR報告書の内容については、「第4章 就職活動に役立つ会社情報の手に入れ方」で説明します。

Q7 . 儲かっている会社は良い会社なのですか

新聞などを見ていると「株式会社 営業利益 × × 億円」と儲かっている会社が注目され、社会的にも評価されていると感じます。儲かっている会社は良い会社なのでしょうか？

最初に儲かっている会社は「誰にとって良い会社」かを考えてみましょう。株式会社の実質的な所有者は株主なので、会社の儲けは配当などを通じて最終的には株主のものになります。そのため、株主にとっては「儲かっている会社は良い会社」というのは間違いのないことです。

しかしながら、会社は大きくなればなるほど株主だけではなく、会社で働く従業員や取引先、顧客、地域社会などの多くの人々に影響を与えるようになります。企業活動が社会に与える影響が大きくなればなるほど、企業の社会的責任（CSR、Corporate Social Responsibility）が重視されるようになってきました。社会的責任とは、社会環境や自然環境に十分に配慮しながら企業活動を行っていくという責任です。

例えば、力関係を利用して仕入先から不当に安く仕入を行い、従業員の給料を可能な限り安く抑えれば利益は増えますが、仕入先や従業員は不幸になってしまいます。同じように工場から出る排水やゴミなどに対する処理を行わなければ、コスト削減によって利益を増やすことができるかもしれませんが、環境を破壊してしまいます。このように社会環境や自然環境に悪い影響を与える企業が増えてしまうと、そこに暮らしている人間は幸せになれません。そこで、近年は企業の社会的責任に注目が集まるようになりました。

とはいえ、各企業がどのように社会的責任を果たしながらビジネスを行っているかは外からはなかなか見えてきません。そこで、最近では多くの企業が「CSR レポート」「サステナビリティレポート」というようなレポート作成することにより、どのように社会的責任を果たしているかという情報発信をしています。

私は経済的な利益を追求するだけではなく、社会環境と自然環境に配慮しながらビジネスを行っている会社が、本当の意味でよい会社だと思っています。これからの経営は利益を上げるだけではなく、より多くの社会的責任を果たしていく必要があります。企業の社会的責任については、「第6章 エコと会計」で詳しく説明します。

Q8 . 決算書を読めるようになると仕事に役に立ちますか

ビジネスマンにとって会計（決算書の読み方）は必須の知識とされていますが、決算書が読めるとなぜ仕事に役立つのですか？

決算書を読めるようになると、いろいろな面で仕事に役立ちます。例えば、営業という仕事では決算書を次のように役立てることができます。私の友人に凄腕の営業マンの S さんがいます。S さんは営業先を探すために、数多くの決算書（有価証券報告書）を分析しました。そして、ある会社に対して取引が 0 の状態から、3 年間で 10 億円の売上を上げました。

S さんは IT メーカーの営業をしていたのですが、売上高の金額から得意先のおおよその投資予算を割り出したり、貸借対照表のソフトウェアの残高などを見ながら、自社製品がどの位売れそうかというシミュレーションをしていました。さらに、潤沢な資金を持っていて、支払い能力に問題がないのかも決算書から確認していました。このように大きな視点から営業先を分析することによって効率的に営業活動を進めていくことができます。

ちなみに、S さんは「売れる営業と売れない営業の違いは、営業をかける前に有価証券報告書などから十分な情報を入手して、売るためのシナリオを作れるか否かだ」と言っています。S さんがどのように売るためのシナリオを使っているかについて「有価証券報告書から 10 億の売上を上げた営業マンの戦略」という無料レポートにまとめ、私のホームページからダウンロードできるようにしました。興味のある方は下記のアドレスからダウンロードして下さい。

<http://ac-intelligence.jp/sokudoku/index.html>

会計を知っていると、営業以外にもいろいろな面で仕事に役立てることができます。就職活動は自分を売る営業です。みなさまも S さんのように、入社を希望する会社を分析して自分を売り込んではいかがでしょうか。私が出会った大学生の中でも、その企業のことを本当に研究している人は、高い確率で内定をもらっていますので、会社研究に十分な時間を使うことは就職活動でも有効な戦略だと思います。

Q9 . どうやったら数字に強くなれますか

仕事をしていく上で数字は大切だと言われていますが、私は数字に弱く、不安を感じています。どうすれば数字に強くなれますか？

仕事で使う数字に強くなるためには会計を勉強するのが一番だと思いますが、数字の苦手な人の中には「決算書の数字を見るのが嫌だ」という人もいます。そのような人にお勧めの練習方法があります。まず最初に「日経市場占有率」(日経産業新聞編)のような、様々な商品のシェアが分かる資料を入手して下さい。そして、シェアの数字を見ながら、実際にその商品が売られている現場を見に行くのです。

例えば、携帯音楽プレーヤーのシェアを見るとアップルが 56.1%、ソニーが 29.4%となっています。確かに家電量販店に行くと「iPod」が一番目立つところに置いてありますし、売り場面積もソニーの 2 倍くらいありました。また、スナック菓子のシェアを見るとカルビーが 40.7%、湖池屋が 12.0%となっています。この数字を見てから、コンビニの棚を見たところ、確かにカルビーのスナックが半分位を占めていました。(上記のシェアはすべて 2008 年度、「日経市場占有率 2010 年版」(日経産業新聞編)より)

数字に強くなるために大切なことは、「iPod はすごく売れているな」とばくぜんと考えるだけではなく、「iPod のシェアは 56.1%で、ソニーの約 2 倍か」というように、裏付けとなる数字を確認する習慣をつけることです。このように日々の生活の中で数字を使って考える習慣をつければ、今まで気づかなかった大切なことに気づくようになります。

また、多くの社会人が数字に苦手意識を持っているのは、数字をどのように仕事に使えるかイメージできないということも大きいと思います。数字をどのように仕事に使えるかについては、「第 8 章 社会人に必要な 3 つの数字力」で説明します。

Q10 . 売り手市場と買い手市場はどちらが得ですか

景気状況によって新卒採用は売り手市場になったり、買い手市場になったりします。長い目で考えると売り手市場と買い手市場はどちらが得だと思いますか？

景気は必ず変動しますので、就職活動のときに売り手市場になるか、買い手市場になるかは運としか言いようがありません。私自身は景気が悪く買い手市場のときに就職活動することになり、当時は「何で少し前まで売り手市場だったのに、自分の時は買い手市場になるんだよ。運が悪いよなあ」と感じていました。でも現在では、次の3つのメリットから買い手市場のときに就職活動をして良かったと感じています。

- 1 . 働くということについて真剣に考えることができた
- 2 . 短い時間で必要なスキルを身につけることができる
- 3 . 出世、転職がしやすい

1 . 働くということについて真剣に考えることができた

まえがきにも書かせていただきましたが、私が大学に入った頃にバブルが崩壊しました。それまでは一流企業に入れば一生安定した生活が送れるというイメージがありましたが、リストラが行われるようになり、一流企業に入れば安心というわけではないんだと感じました。このような状況であったため、いろいろな職業を研究し、最終的には会計士という仕事を選びました。

このようなことを社会人になる前に考えることができたのは、今考えるとラッキーだったと思っています。もし、私が就職活動を考えたときに売り手市場であったら、何も考えずに就職活動を行ってどこかの会社に入っていたと思います。厳しい就職活動の中で鍛えられることにより、働く前に自分のキャリアプランについてしっかりと考えることができたことが、今振り返るととても良かったと思っています。

2 . 短い時間で必要なスキルを身につけることができる

景気が悪いときは採用人数も少ないため、少数精鋭となります。そして、あまり人数に余裕がないため、現場でも即戦力として期待されます。新入社員の頃は仕事を自分で選ぶことができないので、即戦力としてどんどん仕事をやらせてもらえれば、短い期間で一人前になることができます。

例えば、3年で一人前になるのと、5年で一人前になるのとでは、仕事に対する密度が全然違ってきます。そして、社会人になりたての頃に高い密度で仕事をした経験は、その後のキャリアに必ず役に立ちます。

3 . 出世、転職がしやすい

組織の中のポストの数には限りがありますので、一般的には同期の数が少なければ少ないほど昇進が早くなります。その反対に同期の数が多ければ多いほど景気が悪化したときにリストラの対象になりやすいため、景気が悪い時に入社した方がその後は楽だとも考えられます。

また、私が大学生の頃は大手企業はあまり中途採用をしていませんでしたが、現在では、ほとんどの大手企業が即戦力となる人材を中途採用しています。たとえ新卒の時に希望の会社に入ることができなかつたとしても、実力さえつければいくらかでも転職が可能ですので、就職活動だけではなく入社後の仕事も頑張ることが大切です。

ちなみに、「エンゼルバンク」の海老原康夫のモデルとなった、リクルートエージェント社フェローの海老原嗣生氏も下記のサイトのインタビューで「不況期に入社する人は出世する」とコメントをされています。また、同氏の著書である「学歴の耐えられない軽さ」(朝日新聞出版)も現在の就職状況を正しく伝えている良書だと思いますので、興味のある方はご覧いただければと思います。

リクナビNEXT「Tech 総研」「マスコミが伝えない「不況期」転職のチャンスと活用法
http://rikunabi-next.yahoo.co.jp/tech/docs/ct_s03600.jsp?p=001437

学生のうちに知っておきたい会計 目次

まえがき

バブル崩壊と会計との出会い

会計を勉強するメリット

本書で学べる内容

第1章 会計についての10の疑問

Q1．大学時代に会計を勉強するメリットは何ですか

Q2．会計について簡単に教えて下さい

Q3．会計の勉強に挫折しました

Q4．簿記を勉強すれば会社のことが分かりますか

Q5．簿記の効率的な勉強法を教えてください

Q6．決算書はどこで手に入りますか

Q7．儲かっている会社は良い会社なのですか

Q8．決算書を読めるようになると仕事に役に立ちますか

Q9．どうやったら数字に強くなれますか

Q10．売り手市場と買い手市場はどちらが得ですか

第2章 決算書の読み方を覚えよう

(1) 決算書とは何か

(2) 2種類の決算書

(3) 財務3表とセグメント情報

第3章 あこがれの会社を分析してみよう

1．決算書を分析する前に知っておきたいこと

(1) 2種類の分析方法

(2) 分析の手順

2．有名企業の決算書を分析する

(1) TSUTAYAのビジネスを分析する

(2) 広告代理店のビジネスを分析する 電通 vs 博報堂

(3) 総合商社のビジネスを分析する 三菱商事 vs 三井物産

3．優良企業の探し方

第4章 就職活動に役立つ会社情報を入手する

(1) 会社が発信している情報を入手する

決算説明会資料

アニュアルレポート

CSR レポート

有価証券報告書

ニュースリリース

その他ホームページの情報

(2) 会社以外が発信している情報を入手する

日本経済新聞

書籍、ビジネス情報誌

ブログ、ホームページ

テレビ

(3) 就職活動に関連して入手する

会社案内パンフレット、企業の採用ページ、会社説明会

就活用の書籍

OB 訪問

合同採用説明会

大学の就職支援室の利用

就職活動サイト

(4) 実際にサービスを利用する

第5章 有価証券報告書の使い方を覚えよう

(1) 有価証券報告の入手方法

(2) 有価証券報告書の内容

(3) カルチュア・コンビニエンス・クラブの有価証券報告書を分析する

(4) 有価証券報告書から分かること

第6章 エコと会計

(1) 環境報告書

環境報告書とは何か

環境会計

シャープの環境報告書を分析する

(2) 企業の社会的責任 (CSR)

CSR とは何か

マクドナルドとサントリーの CSR 報告書を比較する

エコノミーからエコロジーへ

(3) 社会的責任投資 (SRI)

社会的スクリーン
SRI 株価指数と組み入れ銘柄
これからの SRI

第7章 社会人に必要な3つの数字力

(1) ビジネス数字

ビジネス数字とは何か

- () 数字を読む力
- () 数字で考える力
- () 数字で伝える力

ビジネス数字力を高めるお勧め本

(2) 管理会計

管理会計とは何か

管理会計力を高めるお勧め本

(3) 財務会計

財務会計とは何か

財務会計力を高めるお勧め本

・あとかき～自己PRでお悩みの方へ